2024年(令和6年)8月

WASEDA ALUMNI
SINCE 1885

早稲田大学校友会
佐倉稲門会会報

稲門佐倉

第36号

大学公認和太鼓サークル「魁響（さきがけひびき）」の力強い演奏

巻頭挨拶

会長　森山 泰充　（S48政経）

第38回定期総会を6月9日開催致しました。会員47名来賓12名の方のご出席をいただき、予算や活動計画の議案審議を終えました。ありがとうございました。講演会、懇親会も楽しんでいただけたことと思います。和太鼓「魁響」、笑顔の演奏はとても心地よく響いて感動しました。これからも学生サークルを皆さんと一緒に応援したいものです。

今年も佐倉稲門会の三つの目標「①会員相互の親睦の深化②早稲田大学の発展に協力③地域社会の文化の向上に寄与」に沿って、ぶれることなく活動していきます。

また来年3月15日、6年ぶりにコンサート「錦織健テノールリサイタル」を開催します。音楽を通して佐倉市や周辺の方々との交流をさらに深めて、地域の文化発展に寄与し、市民活動に有形無形の貢献を進めて参ります。多くの皆さまのコンサート参加を期待しております。

ところで生成ＡＩ「Chat GPT」は質問を打ち込むと簡単に文章で回答してくれます。試しに佐倉稲門会のキーワードをいくつか入力すると瞬時に返信がありました。その中で下記のような佐倉稲門会の発展計画も提案してきたので驚いてしまいました。

発展計画：①メンバーシップの拡大と維持（新規メンバーの獲得に向けたプロモーションとコミュニティの魅力向上。メンバーの定期的な参加促進と満足度向上のための施策）②地域貢献と社会的影響力の強化（地域の課題解決に向けたプロジェクトの推進と協力関係の構築。環境保護や地域経済の発展に寄与するイニシアティブの展開）③文化・芸術の振興と伝承（地域の文化遺産や芸術活動の支援と、その普及促進のための取り組み。若手アーティストや文化人の育成と地域コミュニティとの繋がり強化）④組織の効率化と透明性の向上（内部プロセスの見直しと効率化、情報共有と意思決定の迅速化。メンバーとのコミュニケーション強化と透明な組織運営の確立）

生成ＡＩは莫大なデータを学習し、予測を積み重ねて急速に進化するとのことです。回答の一部を紹介しましたが最適解ではないとの違和感もあり、私たちの思考や文化を知らないうちに塗り替える生成ＡＩの価値観にひれ伏さぬよう、自身の知性と理性を磨きながら進歩する技術の力を活かすことがとても大事だと感じた次第です。

長い歴史を経て、日本には世界に誇ることができる学問や文学、洗練された伝統文化芸術、そして礼儀正しく穏やかな道徳心が育っています。大事な「リベラルアーツ（教養）」がこれら「クラシック（危機に直面した時に精神の力を与える書物や作品）」にその神髄が収められています。単なる知識ではなく、日本人が何代にもわたって営々と積み重ねてきた素晴らしい「知恵と工夫と反省」も語り継がれています。城下町で育った私はいまも歴史に学ぶことが大好きです。歴史の動きからどのような解釈が導き出されるか、そして全体像にも思いを馳せることが歴史を学ぶ醍醐味ではないでしょうか。歴史が紡いできた様々な領域を俯瞰する大きな視点も身に着けることで、生成ＡＩと相互成長したいものだと思います。

佐倉稲門会では屈託なく付き合う楽しい人間関係の構築、人の繋がりをこれからも大事にしていきます。人の幸せの素は「スマイルと意識した大きな声」だそうです。笑顔でいればポジティブな気分になれる、声を張ってみると自分に自信が持てる、これらが実践できる自由で多様性のある場を引き続き提供できるよう努力して参ります。

2024年度行事予定・2025年3月コンサート開催

幹事長　河野 俊昭（S48法）

昨年度は多くの行事で会員の皆様が楽しむ姿を見ることができました。引続き今年度も会員の皆様に楽しんでいただける行事を数多く開催したいと考えております。ご興味のある行事にご参加いただき、当会活動をますます盛り上げていただきますようお願いいたします。

今年度は2019年3月以降、コロナ禍により中断していた「ふれあいコンサート」を2025年3月に開催する予定です。収益の一部を寄付することにより地元に貢献できるよう準備を進めたいと考えています。チケット購入等、皆さまのご協力をお願いいたします。

＜既に終了した行事＞

【４月】里山散策と野草を食べる会、県支部幹事会、代議員会
【６月】千葉県稲門祭、佐倉稲門会定期総会、野球早慶戦応援会
【７月】商議員会
＊各同好会も定例活動を行いました。

	行事予定	同好会活動予定	校友会・県支部活動予定
9月	野球早慶戦応援会（または10月）	ゴルフ同好会 囲碁同好会 俳句同好会 お能を楽しむ会 麻雀同好会 ハイキングクラブ 寄席を楽しむ会 懇話会	千葉県支部幹事会 代議員会
10月	20日　稲門祭 20日　ホームカミングデー ウォーキングの会・ハイキングクラブ合同		
11月	23日　ラグビー早慶戦応援会		
12月	6日 佐倉三田会との合同講演会		商議員フォーラム
1月	3日　箱根駅伝応援会 新年会 中山競馬場特別来賓室競馬観戦		
2月			
3月	15日　ふれあいコンサート 花見会		代議員会

・同好会活動については、同好会幹事もしくは
幹事長（090-5765-9049、toshikohno@future.ocn.ne.jp）に問い合わせてください。

錦織 健 テノール・コンサート 開催！

10月1日チケット予約受付開始。会員の皆さんのチケット購入・販売のご協力をよろしくお願いいたします。

錦織　健 氏

▶日時：2025年3月15日(土) 午後2時開演
▶場所：佐倉ハーモニーホール(京成臼井駅徒歩5分)
▶入場料：全席指定 S席(1階) 4,000円 A席(2階) 3,500円
▶佐倉稲門会主催・佐倉市共催のテノール歌手錦織健氏のコンサートは過去に3回開催、いつも大盛況です
▶日本歌曲、ポピュラーソング、オペラ・アリア、ロックまで！聴きごたえたっぷりの「声楽バラエティ」

新入会員の紹介・総会報告

会報第35号発行以降に入会された1名をご紹介します。

豊永　俊之さん（HII 文大学院）

遅めの入会ですが、よろしくお願い致します。

私は東京外語大フランス科を昭和３７年卒、JALに入社、国際部門を担当し、海外はパリ支店とテヘラン支店に勤務しました。退職と同時に早稲田大学大学院で学び、現代フランス文学の作家論で修士を取りました。卒業後、シニア海外ボランティアとしてメキシコとチュニジアの大学で日本語を教えました。

最初の任地はメキシコのメヒカリという米国の加州と国境を接する都市で、今、話題になっている高い柵は既に設けてありました。柵の米国側は照明が明るく立派な家が並んでいるのに対し、メキシコ側は暗くて寂しい町でした。バハカリフォルニア州立大学の学生は真面目で人懐っこく、学生達とのスペイン語と英語まじりの交流はとても楽しいものでした。安くて美味しいタコスやマンゴの味と明るくて陽気なマリアッチの音楽は今でも懐かしいです。

一方、チュニジアは地中海に面していてローマ時代の遺跡が沢山ある美しい都市です。チュニス外語大の2クラス担当し、又、日本語科の院生の論文を指導して修士を誕生させました。学生に囲まれて充実して楽しい２年間でした。

私の家族と親族は５人が早稲田大学卒（一人在学中）なので６人分で早稲田大学を応援したいと思いますのでよろしくお願い致します。

総会
（令和6年6月9日）

令和6年度第38回佐倉稲門会定期総会が、ウィシュトンホテル・ユーカリで６月9日(日)に出席者59名で盛大に開催されました。

総会開始前にこの1年間に逝去された会員のご冥福を祈り黙祷を行いました。

第一部の定期総会は、森山会長の挨拶、ご来賓代表の早稲田大学校友会千葉県地域担当課長梅原竜司様のご挨拶のあと、2023年度活動報告・会計報告、2024年度活動計画案・会計予算案が満場一致で承認され議事が終了しました。その後、新入会員で総会初参加の豊永俊之さん（HII文院）が自己紹介をされました。

第二部は、萩原章史氏（株式会社食文化代表取締役社長・S59政経）の講演を拝聴しました。演題は、「人生は飛躍的に長くなる！生涯現役の心が鍵を握る」。男性にとって孤独が長生きへのリスクとなること、技術の進歩が著しく人生100年どころか130年も目前であること、定年後を余生とは言わずに生涯現役で働き続けることの大切さ等々、日頃実践しているおられる生涯現役の心構えで日々を過ごすことの大切を、講演を聞いて改めて認識させられました。年配者が多い出席者にとっては、今後の過ごし方に大変参考となるお話でした。

第三部懇親会は、早稲田大学公認サークル「魁響」の力強く・勇壮・あでやかな「和太鼓演奏」を楽しみました。１２名のメンバーの流れるようなバチさばき、和太鼓の大きな音色が会場全体に響き渡り、「よいしょ！」「せいや！」の掛け声の中、大いに宴会が盛り上がりました。「魁響」は、早稲田祭や単独公演をはじめ、学内を問わず年間を通じて様々なイベントでパフォーマンスを行っているそうです。次にご来賓代表の唐松千葉県支部支部長のご挨拶のあと、髙橋顧問の乾杯の音頭により開宴となり、賑やかな会員間の親睦が深められました。最後に諏訪副会長の閉会の挨拶のあと、「魁響」の学生も加わり、「都の西北」を3番まで元気な声で熱唱し、名残惜しいなか散会となりました.

脇谷 義朗（S57商）

スマホよりパソコンが大切な日々

大島　信三（S39教育）

月に1回開かれる稲門会のサークル、俳句の会が楽しみだ。「蛙（かわず）鳴く恋することは罪なりや」なんて句に接すると、こちらまで若返った気持ちになる。事前にＩ人3句提出することになっていて、4月の句会では「リラの花晴れて希望の女高生」というのを出した。長女の家で上の子が高校、下が中学に進学し、ささやかな祝いの席を用意した。そのとき姉弟の母親から「何かお祝いのことばを」と唐突にいわれた。「人の悪口をいわないこと」「お金を大切にすること」「自分は運がいいと思うこと」と、案外すらっと出たのは、考える余裕がなかったせいもある。まえもっていわれていたら、四苦八苦していたにちがいない。

もう60年以上も前になるが、大隈講堂で松下幸之助の講演を聞いた。当時話題になっていたソニーの盛田昭夫著『学歴無用論』にふれ、「私には学歴無用なんて、とてもいえない。皆さんが羨ましい」といった。長者番付トップとはいえ、小学校を4年で中退し丁稚奉公に出た身には講堂を埋めた超満員の黒の学生服（昭和30年代は大半が学生服で学帽姿もめずらしくないうえ、女子学生も少なかった）が、いかにも眩しそうな表情であった。幸之助は面接でかならず「自分は運がいいと思う？」と聞いて、「はい」と答えた人の中から採用していた。それを知ったのはずっとあとのことで、たぶん自分は松下電器を受けていたら間違いなく弾き飛ばされていたと思う。

会報の編集子から「本について書いてほしい」という依頼を受けて、真っ先に浮かんだのは運とワープロだった。自著を持てたのはただ単に運がよかったというのに尽きるが、働き盛りのときにワープロが市販されたのは大きかった。もう存在すら知らない若者も多いだろうが、ワープロの出現は大袈裟ではなく自分の人生を変えたと思っている。書くのを職業に選びながらまだ鉛筆やボールペンの記者時代、自分には致命的ともいえる弱点があった。原稿を何度も書き直して時間を浪費する悪癖だ。ワープロでハンデも克服され、社有とはべつに思い切って個人用にも一台買った。まだ結構な値段の頃である。

ワープロからパソコンになって悪筆はむろん漢字知らずや知識不足もさらにカバーされ、なんとか本も数冊出せるようになった。夢中になれるものがあると、退屈もしない。資料をパソコンに打ち込むだけの単純作業も結構楽しいのだ。人によってはスマホなしでは耐えられない時代になりつつあるが、私にはパソコンのほうがはるかに大切だ。だからパソコンが故障したときは真っ青である。先日もマウスカーソルが動かなくなった。30分ほどいじくりまわして、やっとマウスの電池の消耗に思い至った。電池を入れ替えた途端に正常に戻ったときの例えようもない嬉しさの半面、つくづく加齢とは情けないものだとも思った。

佐倉ゆうゆうの里の一日

岩佐　京子（S36文）

朝は、３時から４時に起きる。随分早いと思うかも知れないが、夜は７時には寝てしまうのだから、これで十分だ。ふとんの中や起きてから体操。マッサージ機も使う。約１時間半位。７時まで間がある時は、本を読む。７時過ぎに栄養食品を飲む。７時半から朝食。終わって、９時までロビーで新聞を読む。朝は読売新聞。自室に帰り、本を読む。図書室から借りた本だ。今は、辻堂魁の「風の市兵衛」シリーズ。時代小説である。

昼食は12時から。食後はまた新聞を読む。今度は朝日新聞。午後はまた読書。２時半ごろからウォーキング。ダブルストックを使う。坂を下り、国道296を左に曲がって、白銀団地の右端の坂を登る。梅林を右手に見ながら坂を下る。下ると、左手の遠くに陸橋が見える。以前はそこまで行っていたが、１時間半かかるので、今は行かない。

下りきった所で右に折れる。左はずっと田んぼ。もう90％が田植えを終わっている。

以前は大勢の人が並んで稲を植えていたものだが、今はトラクター。左側をJRの線路が走る。成田エキスプレスがちょうど行きかう。ほとんど人が乗っていない。あれで採算が合うのかなと思う。

帰ってから入浴、大浴場へ行く。３時半から入れるのだ。それまでは介助入浴の人が入っている。帰ってから洗濯。洗濯機が終わるまで、マッサージ機にかかる。15分を２回。終わってから洗濯物を干す。

夕食は５時からだ。食事は、通常食と選択食がある。例えば、今日は通常食が「鶏肉のカシューナッツ炒め」、選択食が「鰺の竜田揚げ香味ソース」である。前もって自分の希望をコミュニティーセンターで登録しておく。カウンターで顔をさらすと、自動的に通常食か選択食が表示される。お盆に受け取って、ご飯は自分で茶碗によそう。お茶は自動給茶機から。レストランの席は自由だが、だいたい決まっている。食後はまた新聞を読む。今度は日本経済新聞。７時までで終わって自室に戻る。歯を磨いて寝る。

ここに入居する前は、東京都文京区白山でルナ子供相談所を開いていた。
自閉症を中心とする言葉の遅い子どもの指導である。指導としては、

①　テレビを中心とする人工音を消す、
②　牛乳を主とした味付き飲み物をやめる、
③　夜の豆電球を消す、
④　保育園などの集団生活は会話が出来てから入れる等で、

約３０年間で１万人の子どもを指導し、約１０％の子どもが正常になった。

私とギターとの付き合い
（Cパーティからシーパーズへ）

稲葉　隆（S51政経）

初めてのギターは高一の時買ったフォークギター、ヤマハFG180だった。それを買った故郷の楽器屋はレコード屋も兼ねた小さな店だったが、地方のギター少年にとっては、陳列されている楽器を見ているだけで胸が躍るような素敵な場所だった。

同級生二人とグループを組み、弾き語りで洋楽フォークや、当時流行り出した和製フォークをコピーして、文化祭などの機会を捉えては歌っていた。

早稲田では歩行会に入り、勉学より山歩きに勤しんだが、夕食後のテントでは、皆持参したガリ版刷りの歌集をヘッドライトで照らしながら、山の歌やフォークを歌ったものだ。

就職が決まって髪を切っても、しばらくは、仲間が集まればギターでフォークやビートルズを歌うのが定番だった。しかしやがて結婚し子供ができ、仲間と会う機会も減り、歌はカラオケで歌うのが当たり前になると、ギターは物置の肥やしになった。

月日が経ち60歳も近くなったある日、高校時代のグループの一人と再会したのをきっかけに20数年ぶりにギターを引っ張り出した。新しい弦を張り、コードを押さえるが、満足に音も出ない。昔の歌本を頼りに少しずつ指を慣らしながら、愛犬を前に弾き語りの練習を始めたが、彼女には子守歌に聴こえたのだろう。歌が始まるといつも寝ていた。

丁度そんな時期、歩行会の同パーティ（Cパーティ）で山に登った仲間（ほとんどが楽器初心者）がおやじバンド（シーパーズ）を始めたのを知り、私も参加することにした。

バンドとなればエレキである。御茶ノ水の某楽器店で、腕前不相応のセミアコ、ギブソンES335をいきなりゲットした。若者なら腕を磨いてから良いものを買えば良いが、年寄りには時間がないと自己弁護しつつの衝動買いだった。その後も何度かの衝動に襲われ、気が付けば、アコギ、エレキ、ガット取り混ぜ、７本のギターが部屋に並んでいる。

シーパーズは10年を超え、ほぼ継続して月一度下北沢のスタジオで２時間の練習と、それより長い反省会を楽しんでいる。

さて肝心の演奏だが、ギターボーカルとして、歌いながらのコード伴奏は何とかなっても、ギタリストの肝（キモ）のソロ演奏には未だに腕が追いつかず、せいぜい（弾き語りの）ガタリストというのが現状である。また、昨年新設された佐倉シニアアンサンブルにも入団したが、こちらでも不得手な楽譜読みには苦労している。

ただ、レベルはともかく、70歳を超えても僅かずつでも上達する（気がする）「何か」があるのは幸せなことだろう。一度は途絶えかけたが、不思議な巡り合わせのおかげで復活したギターとの付き合いであり、これからも大事にして行きたい。

私の推し生活

福田　幸一（S57法）

最近「推し」生活をされている人の話がテレビやインターネットの情報でもとりあげられています。

あれ、そういえば私自身もそのような生活をしているのではないかと、ふと思いました。それで今回私の推し生活について書きたいと思います。

私の推しは、沖縄県うるま市の中学高校生が演じている『現代版組踊「肝高の阿麻和利（きむたかのあまわり）」』の観劇です。コロナ禍以前は、うるま市内の劇場（きむたかホール）で年間３回公演が行われ、各回土曜日と日曜日に昼と夜の部の合計４回の公演をすべて観てました。演劇の内容はいつも全部同じです。

あっ、これが「推し生活」なんだということに今更気付きました。

ではこの「きむたかのあまわり」とはどういうものだろうかと言いますと、うるま市の勝連城（ユネスコの世界遺産です。今は整備されてとても綺麗ですよ）の城主の物語で、１５世紀半ばに城主となった阿麻和利に関する言い伝えが地元にあり琉球正史とは違う内容で作られているものです。正史では首里王府に逆らった反逆者と言われてますが、地元では民に愛された王で首里王府に騙されて滅ぼされたと言い伝えられてます。それを地元の中学高校生が2000年から演じているのです。今では沖縄県立博物館で「阿麻和利」のことは、琉球正史と地元での言い伝えのことも記載されてます。

私が好きになったのは、正にここのところです。その地域に住んでいる人々で、しかも中学生と高校生がその地域の歴史をしっかりと身に付けて高校を卒業して巣立っていくことの素晴らしさと、卒業するとこの舞台には二度と出れないという感慨深いものを感じながら観劇できることを、毎年卒業公演の時に味わうことができます。1年間で３回の公演がありますが、その時々で観る楽しさが違います。卒業公演以外の時期の公演の楽しみはといいますと、夏休み前の公演では中学1年生は数ヶ月前小学校6年生でしたのでまだまだ小さい子供たちで初々しいですし、その子供たちの演技を観ているとこれからどんな風に成長していくのかなと楽しんでました。それが今度は秋の公演になりますと演者の子供たち（中学高校生）みんながしっかりと舞台で演じ始めているのを観ることが出来ます。成長しているところを発見する楽しみも与えてくれます。だからこそ毎年数回行われていた公演を、しかも同じ内容の演目を観に行くことが楽しくてしょうがないようになっていました。公演の内容が違う内容であったら、もしかしたらどこかのタイミングで観に行かなくなっていたかもしれません。

私が初めて観に行ったのが２００８年の公演でした。いつの間にか16年経ちました。昨夏の東京での公演では、何かお手伝いをさせてもらおうという気持ちになりスタッフとして応援しました。 私は自分自身が楽しいなと思っていることを続けていたら、いつの間にか「推し生活」になって、まさかこれで日々楽しい生活を送れるとは思ってもいませんでした。

皆さんも、 気が付いたら「推し生活」になっていた、 なんて感じになってください。楽しいですよ！！

傘寿を超えて

中村　昭夫（S41政経）

昨年2023年、無事に傘寿の大台を超え米寿、卒寿、白寿へ向け頑張っております。馬齢を重ねて、光陰矢のごとしであっという間に80歳を超えました。佐倉稲門会では傘寿を超え元気な方が多くおられ、それぞれご活躍中であり一筆啓上などは遠慮したいところですがどうぞご容赦ください。

人間万事塞翁が馬、人間至るところ青山ありは最近よく思い出す箴言ですが、温故知新、教育と教養（今日行くところあり今日用事があるとの意であると稲門の方に教えられました）、健康第一を日頃心がけております。

佐倉稲門会に入会して25年近くになります。諸活動・行事に参加することでいろいろな方との出会いがあり学習なり楽しまさせていただき心身の癒やしにもなっています。この年齢になりまして卒年の10年以上後の会員と交わると刺激を受け教えてもらうことが多々あります。時には隔世の感がするなと思うことがありますが、佐倉市民（市民でなくても佐倉大好きな人も）、早稲田卒業、好人物、同好の士（アウトドア派？）、お酒？と言うことで会話が弾む次第です。今年は佐倉市市制施行70周年、佐倉稲門会が誕生（1986年10月）して38年です。昨年は千葉県誕生150周年と言われておりました。早稲田大学が2032年に創立して150周年を迎えるようです。

私の卒業した高校は2025年に創始300年（1725年・享保10年に広島藩主浅野吉長公が講学所創設）となるようです。いわゆる藩校で広島県にはもう一つ藩校（福山藩）がありますがここ佐倉市の佐倉高校も歴史のある藩校です。そこのＯＢが佐倉稲門会に多くおられ献身的に会の発展に尽くしておられます。2019年6月号の雑誌「文藝春秋」に『教育の本質は「藩校」にあり』副題で江戸時代から伝わる「志」と地域への誇りとの一文があり、佐倉高校などが紹介されていました。佐倉高校の教育方針は『質実剛健』、『積極進取』、『独立自尊』とあり、早稲田の校歌に進取の精神、学の独立、現世を忘れぬ久遠の理想とある言葉が思い出されます。わが母校（高校）のそれは『知徳併進』、実践綱領は『尊親敬師』、『至誠勤勉』、『質実剛健』とあります。幹事・会員のなかでも地方の藩校（会津、丸亀、福山、山口など）の出身者がおられ熱心な活躍ぶりです。これらの堅い感じの四字熟語は今時流行らないかも知れませんが含蓄のある言葉であります。十六～十八歳時代に教えられたこれらの言葉を六十余年以上経過しても思い出すことがあります。その言葉の意とするところ年齢相応にかみしめつつ、老いたとは言えまだまだ志を持ち邪魔にならないよう元気で佐倉稲門会の行事などに参加して皆さまとの交流を引き続き図って行きたいと思っております。

安藤元博投手の思い出

山口　剛弘（S37商）

私が、大阪に勤務していた頃、突然安藤元博さんから電話があった、今甲子園にいるが用事がすんだから会いたいとの話だった。

森喜朗さんが文部大臣に初入閣して高校野球の開会式で始球式を務めたが、投げ方が分からないから教えろと言われて一緒に甲子園まで来た。始球式は早い時間に終わって時間ができたので会いたいとのこと。難波の本社まで来てくれたと思うが、どこで食事したのかも忘れてしまった。夜に一杯飲みたいと思ったが森さん達と合流したのか帰って行った。1984年の春か夏の甲子園大会だったと思う。

こんなことを書いたら出まかせを言うな、嘘に決まっていると言われるだろうが本当のことである。1960年秋の早慶6連戦で勝利した早稲田の英雄で神宮のヒーローだった安藤さんと運動部でもない平凡な私が何故知り合いになったか、疑問を持たれるのは当然のことだ。

安藤元博さんを紹介してくれたのは新日本製鐵（現日本製鉄）建材課長の前田穆人さんだ。東大法学部・空手部副将のキャリアーの超エリートだ。前田さんと安藤さんの3人で飯を食べようというので喜んで同席した。二人は香川県宅間町の小中の同級生で、安藤さんが級長で前田さんが野球部の主将だったと楽しそうに話していた。二人は大学入学で新聞に大きく掲載された、安藤さんは早稲田に入学、前田さんはストレートで東大法学部入学の地元での初快挙・慶賀と大きく報じられたという。香川県宅間は少林寺拳法の発祥の地であり前田さんもやっていたそうだが東大入学後は空手部に入り、ゴルフでもシングルであった

安藤さんは博学だった、投手は頭が良いというが記憶力は抜群だった。安藤さんはよく喋った、早口で次から次へと話題が出てきて楽しそうだった。

当時安部球場は大学の隣にあり、剣道・柔道場も校内にあった。雄弁会は甘泉園で大声で練習していた。安藤さんは雄弁会との交流が深かったようで、麻雀仲間で森喜朗さん、青木幹雄さん、玉沢徳一郎さん達とはよくパイを囲んでいたそうだ。

プロ野球の東映に入団して巨人に移ったが一回も昔の話はしなかった、六大学の早稲田の英雄だとのプライドが常に感じられた。新宿で飲んだとき、家の近くまで送っていった、野球選手は身体がでかい、腕も手も大きかった、家内が待っているからと言って家に入って行った。それから何回か会ったが、互いに多忙で会わなくなった。新聞の訃報欄で彼の逝去を知った。1996年56歳没。あまりにも若かった。

生きていたなら佐倉稲門会で、安藤さんの話が聞けただろうと思うと残念だ。平凡な私にもこんなことがあったなんて夢か小説か、映画の世界かと記憶も曖昧に朦朧としてきたが、神宮の早慶戦には毎回応援に出かけ、新宿では熱狂し、青春の思い出をいっぱい作ってくれて、早稲田で学んだ縁が私に安藤さんとの偶然の機会を与えてくれ、楽しい思い出を沢山作ってくれたと感謝しています。

里山散策と野草を食べる会

澤谷　英男（S43商）

学生時代ひょんなことからクラブ創立に携わりました。山好き、料理好き、植物好きの三人で「早稲田大学なべの会」なるクラブを作りました。山に行き、山菜や野草を摘み取り、その場で料理して食べることがメイン行事でした。

佐倉稲門会で何か皆で楽しめる行事をとの考えで「里山散策と野草を食べる会」を30年前に始めました。佐倉はその点で野山に囲まれており、場所的にも恵まれておりました。皆さんの反応が最初は疑心暗鬼でしたが、料理を作りみんなで食べている顔は楽しさ一杯でした。もちろんお酒一杯の力もありますが。会を重ねるごとに参加者が増え、其れなりに事前準備（ルート下見、事前採集仕分け、料理材料購入）や調理の手間等がかかり皆さんの協力が必要になり、お手数をかけております。これからも松平とのコンビで山野を巡り、美味しい野草を摘んで、一杯絡みの楽しい会を五体が動いている間は続けていきたいと思います。因みに26人が参加した2024年4月開催の会の野草料理の献立をメモしますので参考にしてください。

ユキノシタ(葉の天ぷら)、ドクダミ(葉の天ぷら)、ウド(芽先・葉の味噌汁)、クズ(芽先の天ぷら)、ヨモギ(葉の天ぷら)、セリ(胡麻和え)、ヤブカラシ(辛子酢味噌和え)、ヤブカンゾウ(酢味噌和え)、タラ(芽先の天ぷら)、クレソン(卵とじ)、ノゲシ(肉炒め)、ハルジオン(蕾の天ぷら)、ノビル（生を味噌で）、たけのこ(天ぷら、味噌汁)。その他この時期に食べられる野草：ツユクサ、スイバ、アカザ、ハコベ、ギボシ、フジ、レンゲ、カラスノエンドウ、スミレ、ミツバ、アカザ、ヒルガオ、クコ、アザミ、フキ、タンポポなど

ハイキングクラブ佐倉里山自然公園紀行

楠原　正人（S49社学）

5月26日（日）、9:00東邦大学佐倉病院横のあやめ薬局駐車場に16名の稲門会員及びその家族が集合した。

令和5年6月に佐倉市の公園基本構想策定により従来の佐倉西部自然公園は、佐倉里山自然公園と改称した。東邦大佐倉病院、佐倉西高、上手繰川に囲まれた73haの谷津、台地を歩き出した。水田、森のある懐かしい風景である。

今井さんが筍をもいでいる。田中さんが見つけ捨てたタカ科の渡り鳥サシバの羽根を諏訪さんが見つけ、メンバーにサシバ愛を説明している。

実に自然豊かな里だ。

道が何本もあり、下見をしたにも関わらず迷いながらの散策だったが、12時に無事、昼食会場の「一幸」に到着した。そこには、花川さん一家、諸事情により「一幸」での集合となった山口さんの奥さん、岩佐さんが待っていた。

都合21名が集結。

乾杯、新入会員の自己紹介と進み、その後は和気藹々の1時間飲み放題付き、2時間の昼食会がスタートした。

約半数が女性となり、女性の参加意欲を改めて実感、また普段稲門会活動では会えない人との懐かしい再会がある。飲食の座席を恒例の抽選で決めスクランブル化するなど楽しいハイキングを旨とする雰囲気は、秋のハイキングへの期待を募らせる。

会員の高齢化により、高山のトレッキングから平地のハイキングへと活動範囲を移してきたが、会員相互のフランクな関係、気楽な会話は変わらない。

会員の継続要望も思いの外あり、出来うる限りハイキングクラブを継続させていきたいと考える所以である。

出身地の昔と今　出身地域別入学者数・合格者数の推移

	１９６５年度		２０２３年度	
	入学者(人)	割合(%)	合格者(人)	割合(%)
北海道	186	2.0	115	0.7
東北	376	4.1	185	1.2
関東	**5,498**	**59.6**	**12,383**	**79.2**
中部	1,286	13.9	1,219	7.8
近畿	612	6.6	853	5.4
中国	438	4.8	255	1.6
四国	267	2.9	137	0.9
九州沖縄	557	6.1	410	2.6
その他				0.5
合計	9,220	100.00	15,557	100.0

2023年度の合格者のうち関東出身者が80%を占め、そのうち東京都の高校出身者が関東地方の50%、早稲田全体でも40%が東京の高校生である。1965年入学時の実感としては周りの同級生はほとんど地方出身であり７割は超えていると思っていたが、実際はそこまではいっていない。いずれにしろ首都圏の学生が増大を続けており反面、早稲田が従来持っていた泥臭さ、多様性、「早稲田らしさ」が喪失していく寂しさも感じられる。

大盛況「生誕１００年　越路吹雪衣裳展」開かる

早稲田大学演劇博物館にて８月４日まで開かれた「越路吹雪の衣裳展」、校友会諸氏のみならず、一般の越路吹雪のファン、宝塚ファンの多くが早稲田演劇博物館に訪れ、今なお色あせない越路吹雪の美の世界、舞台に賭ける情熱に堪能されました。

６８万人の先輩が応援！早稲田大学校友会サポート「１００円朝食」

早稲田大学の学生に健康的な食生活への関心を持ってもらおうと2016年から開催されている100円朝食、これは先輩諸氏の校友会費による支援で実施され、大隈ガーデンハウス、西早稲田キャンパスにて６月に４日間づつ実施されました。栄養満点な定食、校友会の支援や活動内容も併せて伝えています。

◆信仰の山々と「アタック」

我が家の近くに「梵天塚」があり、立派な石碑が10基を超え並んでいます。古い物は安政時代や、新しいのは平成時代の物もあり、いずれも石碑に羽黒山、月山、湯殿山が刻まれ、信仰深い出羽三山の参拝記念となっています。富士山に登ると、山頂には富士山本宮浅間大社があり、日本の多くの山には神社や祠があります。その神様がいる山々を西欧では何故「アタック」と言うのか、長いこと疑問でした。それが近頃やっとその疑問が解け初期のキリスト教会が「山は悪魔の住処である」と規定したそうだ。19世紀に近代登山が生まれたが、それは悪魔の山を「攻撃して征服する」という。神にお参りする日本の山登りとは真逆の発想だ。えらい違いだ。

◆雨ニモマケズ

正月に息子家族が来て、幼稚園の孫と遊んでいると孫が「雨にも負けず、風にも負けず・・」前半をすらすら言うのにビックリ。息子は教えてないと言う。どこで覚えてきたやら。去年東北を旅した時、花巻にある「宮沢賢治記念館」に立寄り、それ以来独断の解釈をしております。「雨ニモマケズ」の前半部分は大正時代、花巻に住む宮沢賢治が百年後、地元花巻東高校に現れる大谷翔平を詩ったもの「雨ニモマケズ　風ニモマケズ　雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ　丈夫ナカラダヲモチ　慾ハナク　決シテイカラズ　イツモ静カニ笑ッテイル」これは正に世紀を超え、スーパースターの出現を予測したに違いない。ただ息子たちには失笑され残念です。

◆「4時10分前」は何時何分？

東北は宮城県の中学校の先生の話です。校舎内で生徒に「今何時？」と聞いたら「4時10分前です」とのこと。すぐ戻ったら4時を過ぎている。生徒に「さっき4時10分前って言ったよね」確認すると「はい」、気付いたのは生徒は4時9分頃を4時10分前と言っていたのだ。他の生徒に聞いてみると殆ど4時10分前は4時9分頃と答えた。職員室でも若い先生は生徒と同じ人も。「4時10分前」とは？皆さんに聞いてみたい、先生のお願いです。

（河西　郁男(S44教育)）

発　行　人：森山 泰充
編集委員会：河西 郁男、楠原 正人、諏訪 吉春、中村 勇、稲葉 隆、早川 誠貴
表紙写真撮影：中村 勇
会報連絡先：河西 郁男 kikuo9071946@yahoo.ne.jp
ホームページ：www1.rurbannet.ne.jp/~sakuratoumon